

# 「世界中の誰よりきっと」……♪

## 〜おかあさんのおなかのなかの秘密〜

株式会社本物研究所 代表取締役社長 佐野浩一



さの こういち

1964年 大阪生まれ。大学卒業後13年間、私立中高一貫教育校の英語科教員として従事。2001年4月、株式会社船井事務所入社。株式会社船井総合研究所に転出。船井幸雄より「人づくり法」の直伝を受け、企業幹部向け研修「人財塾」として体系化、その主幹を務めた。2003年4月、株式会社本物研究所を創設し、代表取締役社長に就任。商品の「本物」、技術の「本物」、生き方、人づくりの「本物」を研究、開発し、広く啓蒙、普及活動を行っている。著書に「スリッパ船井流 人を育てる 自分を育てる」、船井幸雄との共著に「本物の法則」。

### おかあさんの愛で包み込む！

40代の死因のトップは、何だと思われませんか？  
自殺。

これはとても衝撃でした。働き盛りで元気な年代ですから、死。自体もまだピンとこないという時期です。なのに、亡くなる方の多くが自殺だなんて、本当に悲しい事実だと思われませんか？

おなかの中の赤ちゃん。

はじめは、たった一つの細胞でした。わずか十月十日で約3兆個まで細胞分裂を繰り返して、体のあらゆる繊細な機能までも形成し生成発展していきます。その期間に、絶え間なく聞いていたおかあさんの心臓の音。胎児期のおかあさんのおなかの中の音は、「心地良い安心できる音」として胎児の潜在意識や細胞に蓄えられていくと考えられます。その心音を聞くことにより、細胞レベルで、

し続けます。その間、胎内で絶え間なく流れていた、唯一無二の音。それは、お母さんの心音。

### 安心音 誕生前夜

「私たちにとって、究極の安心・癒しとはなんだろう？」

「安心」↓「外的危険要因がない」↓「何かに守られている（反対解釈で幼児期など自分が弱いとき）」↓「生を受けて一生で一番弱いとき」↓「身体もまだ未成熟で、おかあさんのお腹の中にあるとき」。その環境を残してあげること、「未来の子どもたちに安心を贈ることができるのではないか」という発想のもと、わずかなスタッフとある商品の制作をはじめられたのです。

しかし……、1人1人にオーダーメイドで「母親の心音」を残すという今までにない概念が、果たして世に受け入れられるのか？ 実際に制作途中では、頭を悩ませる時期があったそうです。

ちょうどそのころ、ご縁が生まれます。福岡でライフカラーカウンセラーの講座を実施する日の午前に、会場でお会いすることになったのです。これまた、いまとなっては本当に偶然としかいえないようなタイミングでした。

新名さんの素朴で、真つすぐで、ポカポカ温かいお人柄、河野さんの前向きで、元気で、信念にあふれていらっしやるお人柄。このお二人の熱のこもったお話しに、私は瞬間的に魅かれました。そのとき、ピンとききました。

あらゆる細胞形成組織が活性化するとすれば、この貴重な心音は、きつと究極で最高のプレゼントになるはずですよ。

世界中の誰よりきっと……、おかあさんから受ける愛は大きいもの。その愛を形に残そうと、真摯にこの社会問題と向き合おうとしたのが、株式会社オリオン（新名静子社長）。2009年に生まれた、新しい、ピカピカの企業です。そして、元建築関連のお仕事をなさっていた新名力さんと元教育者である河野靖美さんが、安心音の生みの親となられたのです。

### 未来の子どもたちのために

同社の所在地である延岡市は、東九州に位置し人口が13万人の都市です。江戸時代には延岡藩の城下町として栄えました。大正時代以降は、旭化成を中心とする工業都市に生まれ変わり、現在では東九州の中核都市として発展してきました。海と山に囲まれ自然も豊かで、空気もおいしくとて

「このお話は、（胎内記憶の権威でいらっしやる）産婦人科医の池川明先生（池川クリニック院長）にご紹介しないといけない」と。

それで東京に戻ってすぐ、池川先生にそのとき私を感じた深い感動をお伝えすべくお手紙を書きました。着いたころ合意を見計らいお電話を差し上げると、先生も感動されていて、「すぐにでもお会いしたい」と言ってくださったのです。

数日後、河野さんからまたまた感動に満ちたお声で、しかも少々興奮されたご様子でお電話がありました。偶然にも、池川先生から妊婦さんの子宮内音（安定期に子宮内で小型マイクにて録音）を聞かせていただいたのだそうです。そのとき、胎内音のほとんどがまさしく「母親の心音」であることを確認されます。そのとき、お二人の、「未来の子どもたちを救ってくれるのは、母の心音だ」という推測が確信に変わったといえます。

人との出会い、そして感動。こういうとてもヒューマンなものつながりによって、安心音は商品として育まれていきます。

### 世界中の誰よりきっと……

「東京ビジネスサミット2009」には、締め切り間際になって出展を打診されたのだそうです。これは、全国より新商品、新技術などを持ち寄る展示会で、出展する側も、来場する側も、毎年多くの先進的な企業人でひしめき合います。そして、当初何が何だかわからないまま、383社中16

もよい場です。車で1時間も走ると、天孫降臨の地と言われている、高千穂峽があります。しかし、そんな延岡市もやはり経済環境は厳しいようです。新名さん、河野さんは、そんな延岡を何とかしたい、そして、新たな事業をスタートさせるなら、「子どもたちの未来に安心を贈りたい」というピュアな思いを実現させようとお考えでした。社会で起きている悲しい出来事や子どもたちの命に関わる悲惨な事件の増加。これらは、孤独感・疎外感・ストレスなどから生まれています。子どもたちに対する虐待なども、まったく同じ理由と考えられます。まさに、親も子どもも、心や体に安らぎが欠如する時代。だから、まさしく、一生を通じて心や体をずっと守ってってくれる、最高の安心音を求めていらっしやったのです。

胎内の赤ちゃんは、おかあさんから栄養を受け取り、外界から守られた環境で、安心してすくすく成長します。そして、わずか40週前後で小さな1つの細胞は2〜3兆個にまで増え、生命を形成社に選ばれ、その結果、最高賞であるビジネス大賞を受賞することになったのです。

その後は、NHKや産経新聞、日経トレンディネットなど数多くのメディアで取り上げられることになりました。「癒しに価値！」などと、この商品が持つ社会性が高く評価されるようになってきます。そんななかで初めて、「いまの時代に必要である」ことを実感するに至ったとおっしゃいます。本当に誠実なお二人です。とりわけ、「購入された」お客様の声により、安心音という商品が、お二人の想像していたよりも、多くの感動と、お子さんが育っていく上での安心の手助けにと期待されていることを知り、これからもより多くの方に知っていただく努力をしていかなければいけないと心にお決めになります。

妊娠中のおかあさんの心臓の音を収録した。世界にただ一つだけのCD。これが、安心音。

未来の子どもたちのためにできること。それは、世界中の誰よりきっと……、何よりもつと……癒される場を提供すること。それは、おかあさんのおなかの中。そして、そこで聴いたあの音。

新名さんと河野さん、そして私たちの取り組みはいま船出を迎えます。

ほんものは……シンプルで、温かく、熱き信念に満ちたもの。感動や感謝もいっぱい込めてお届けします。